



特集① 放課後子供教室

蕨市立中央東小学校区放課後子ども教室



特集② 学校応援団

行田市立見沼中学校

特集① 中央東小学校区放課後子ども教室



中央東小学校区におけるミーティング

蕨市の放課後子ども教室では、各小学校区によつて異なりますが、「10のやくそく」を定め、子どもたちが人とのふれあいの大切さを感じ、社会性や自主性を身に付ける場を目指しています。また、地域の方にとつては、大人と子どもの交流の場となり、世代を超えた温かい街づくりの一端を担っています。

活動内容は、宿題や自主学習を約三十分行つたのち、自由遊びの時間となつています。

蕨市では平成十九年度から、市内七校すべての小学校において、放課後子ども教室が開催されています。会場ごとに開催回数は異なりますが、五月から三月にかけて二十一～二十五回行われております。各小学校には地域の方を中心とした実行委員会が組織され、活動支援や安全見守りを行つています。

十八年目を迎えた 蕨市放



ベストに描かれている キャラクター

自由遊びの時間には、好きな遊びをしたり、時には季節に見合ったイベントを開催したりして、子供たちが楽しく過ごせるようにしています。

- 蕨市放課後子ども教室10のやくそく

 - ①いつも「こんにちは・ありがとう・さようなら」がいえます。
 - ②自分で出席簿に○印をつけます。
 - ③うわばきやランドセルなどの荷物は、決められたところに置きます。
 - ④最初に宿題をすませます。
 - ⑤トイレをきれいにつかいいます。
 - ⑥スタッフの先生のお話を静かに聞きます。
 - ⑦危ないことや迷惑になることはしません。
 - ⑧みんなで仲良くすごします。
 - ⑨帰りの時間になつたら、帰りの準備をします。
 - ⑩使つたものは片づけて、来た時よりもきれいにします。

十月六日（月）蕨市立中央東小学校を訪問し、放

取材しました。

この日の中央東小学校放課後子ども教室は、特別講座としてハロウィンの工作教室が開催され、授業を終えた子どもたちが元気に体育館に集まつてきました。この日の参加者は一年生から六年生までの78名。ピンクのベストを着用したスタッフの皆さん、子供たちを笑顔で迎え、出席簿に○印をつけるのを見守ります。

午後三時になると、実行委員長の方から「今日の活動は、スペシャルのハロウィン工作が家庭科室でありますので、ぜひ行つてみてください。」とのお話をありますので、ぜひ

披露され、子供たちからは「おー」という歓声や「早く作りたい」という声があちこちから聞こえました。そして、「10のやくそく」を確認して、放課後子ども教室の活動がスタートしました。

この日のスタッフの数は十三名で、事前のミーティングで分担を確認したとおり、スタッフの皆さんも子供たちとともに、それぞれの活動場所へ移動します。

この間が、参加するようになつた」という男性サポートもいらっしゃいました。子供たちと接する機会が少ないので、貴重な時間で過ごしました。「みんなの口をそろえ多時会話されていました。

ハロウィン工作、宿題・学習、クラフト工作は各特別教室で、自由遊びは体育館で実施。子供たちはそれぞれ好きなところで過ごします。まずは、宿題を先に終わらせてから、樂しみにしていたハロウィン工作に移動する子もいれば、体育館で自分が見られました。

ハロウィン工作



ハロウィン工作の紹介



自分で出席簿に○をつける子供たち



子供たちを待つスタッフ

十月六日（月）蕨市立中央東小学校を訪問し、放課後子ども教室の取組を取りました。この日の中央東小学校放課後子ども教室は、特別講座としてハロウィンの工作教室が開催され、授業を終えた子どもたちが元気に体育館に集まつてきました。この日の参加者は一年生から六年生までの78名。ピンクのベストを着用したスタッフの皆さん、子供たちを笑顔で迎え、出席簿に○印をつけるのを見守ります。

午後三時になると、実行委員長の方から「今日の活動は、スペシャルのハロウィン工作が家庭科室でありますので、ぜひ行つてみてください。」とのお話をありますので、ぜひ

披露され、子供たちは「おー」という歓声や「早く作りたい」という声があちこちから聞こえました。そして、「10のやくそく」を確認して、放課後子ども教室の活動がスタートしました。



活動開始の前には必ず「10のやくそく」を伝える



8班に分かれて始まりを待ちます



友達と教え合ったり、スタッフに聞いたり



様々な色を選べるように準備

家庭科室に行くと、たくさんの子供たちがお話をしながら、すてきな仮装を思い思って作つていました。スタッフの方々も子供たちの様子を見守り、丁寧に作り方を教えていました。黒いマントを手を通すだけの形に仕上げた子や、友達とおそろいのイチゴの仮装をした子たちの表情は、とてもにこやかでした。中には、作つたものを身にまとい、仮装を楽しむ子や、帰りの支度をした後もランドセルの上から身に付けている子もあり、とても満足した様子がうかがえました。「友達とおそろいのものが作れてうれしかったです。」「難しそうだつたけれど、簡単に作れたので、家でも別のもを作つてみたいのです。」といつた感想を聞くことができました。



完成したものを身にまとい、仮想を楽しむ子供たち



仮装して帰りの支度をする子供たち

スタッフの方々も、この日のために準備したハロウイン工作をみんなが喜んでくれたのでよかつたと、日々に話していました。

体育館では、遊びごとにスティックが区切られていました。「今日は、バドミントンをするのが楽しみです。」と話していた子は、宿題を終えてから体育館へ移動し、スタッフの方を相手に、長い時間、ラリーを楽しんでいました。スタッフ手作りの輪投げには、遠いところからチャレンジする子供たちの姿が見られました。

安全な場として

子供たちが下校する際もスタッフ総出で、保護者への引き渡しを丁寧に行つていました。保護者の方からは、「地域の方には感謝の気持ちでいっぱいです。」
「子供が毎回楽しみにしているので、親としてもとてもうれしいです。」
「子供が毎回楽しみにしていました。」
「声を聞くことができました。」



宿題・自主学習



ストラックアウト



輪投げの的はスタッフの手作り



バドミントン



ボール遊び



クラフト工作

スタッフの必需品

中央東小学校では、SNSを活用して、情報発信や緊急時の連絡をしています。この日の活動もけがなく終わりましたが、けがが実に残すとともに、保護者や学校、教育委員会へ責任をもつて連絡しています。

スタッフの名札ケースの中には絆創膏が入れてあり、子供たちがけがをしても大丈夫なように、軽いすり傷などに対応できるようになります。

今回の活動では、ご自身が通うクラフト教室で学んだことを生かし、子供たちに作る楽しさを味わつてもらうため、クラフト工作を実施しています。

子供たちの溢れる笑顔から、宝物が新たに増えました。

中央東小学校では、SNSを活用して、情報発信や緊急時の連絡をしています。この日の活動もけがなく終わりましたが、けがが実に残すとともに、保護者や学校、教育委員会へ責任をもつて連絡しています。

実行委員長が見せてくれたのは、これまでに子供たちから貰ったたくさんのメッセージでした。きれいにファイリングされており、「すべてが宝物」とうれしそうにお話をされました。

すべてが宝物



絆創膏を常備している名札ケース

中央東小学校紹介



住所：蕨市中央7-18-7

児童数：416名

開校年月：1967年4月（開校59年目）

学校教育目標：進んで なかよく 元気な子

キャッチフレーズ：あいさつと笑顔でつながる中東っ子

学校HP <https://chuohigashi-e-warabi.edumap.jp/>



特集② 行田市立見沼中学校学校応援団



11月に行われた資源回収の様子



大沢さん(左)と森田さん(右)

特集②では、見沼中学校の学校応援団の活動と地域の行事にスポットを当ててお伝えします。

今年度は百名近い方が参加しました。

さわせていていい恩返しがきっかけで始まつたもので、荒木地区スポーツ協会が、普段体育館を使っていたいいる恩返しとして掃除をしたことがありました。

二十年前、荒木地区成会による体育館の大掃除が行われます。この取組は約

毎年五月に、体育館を構成する約二十の団体等で構成されます。

見沼中学校の学校応援団による伝統的な取組の一につい清掃ボランティアがあります。

行田市立見沼中学校では、「人が環境を作り、環境は人を作る」を信条として、保護者や地域の方々に対し保護者会などで情報発信を続けてきました。その結果、行学校応援団の活動が盛んに行われています。

「人が環境を作り、環境は人を作る」を信条として、保護者や地域の方々に対し保護者や地域の方々に対し保護者会などで情報発信を続けてきました。その結果、行学校応援団の活動が盛んに行われています。

十一月、見沼中学校区で行われた地域の文化祭を訪問し（九日須加地区、十五日荒木地区）、見沼中学校の学校応援団の方々からお話を伺いました。荒木地区青少年育成会会長の大沢正和さんと、学校応援団コーディネーターの森田敏一さん。お二人とも地域への愛情が強く、見沼中学校で清掃ボランティアを始めたきっかけや地域の行事のことについてお話をしてくださいました。

地域の恩返し

見沼中学校では学校応援団によって、年間二回、学校ファームの整備、校庭の樹木剪定を含めた除草作業が実施されています。農家の多い地域ということもあり、刈払い機や、重機を提供してくれる地域の方もいます。青少年育成会や各地区の自治会、民生委員、PTA等による結束力の高いチームで学校環境整備に取り組んでいます。



柔道場も心を込めて



早朝から多くの方が集まりました

人が環境を作り、環境は人を作る

ボランティアの人数については問題ないものの、高齢化や少子化の課題は避けられないと、できる人で取り組み続けることが重要であるとのことです。



感謝の気持ちを伝える飯岡校長先生



高いところまできれいに

森田さんは「保護者について協力を得られるか、模索しているところ。後継者については、これまで一緒に協力してくれた仲間で代々引き継いでやってきて、この関係性が続く限り、今後も活動は続いていく。」と話しています。

地域の環境資源を 生かして

見沼中学校区の周辺には、ブルーベリーやぶどう、梨、イチジク、いちごなど、多くの果樹園があります。

七月には、みつばちと共にブルーベリーを栽培している「久保田ファーム」の協力を得て学習活動が展開されました。全校体験学習として行われたブルーベリー狩りでは、運営されている久保田さんが、みつばちとブルーベリーを栽培することになつた経緯を語り、生徒は試食したり、お土産として家に持ち帰ったりしました。

また、PTAの協力で、事前に採取したブルーベリーを煮詰めてジャムにして、給食時に提供。生徒の皆さんにはパンにつけておいしくいただきましたそうです。



熟したブルーベリーを大切に摘み取る生徒



できたてのブルーベリージャム



蜜蠟を見せる久保田さん



蜂の動きを遠くから見る生徒

ブルーベリーの受粉には、みつばちが重要な役割を果たします。久保田さんは、ブルーベリーの栽培を学ぶうちに、みつばちを飼い始め、数が増えた現在では養蜂も行っているとのことです。

体験学習においては、意義や効果を家庭や地域と共有し、連携・協働することが重要です。また、その体験活動の目的を自覚して行うことが望ましいとされています。昨年度は、江戸時代に行田で生まれた在来種でブランドとして販売されている青大豆「さきたまめ」、今年度はブルーベリーの体験学習。地域の方から学ぶ体験学習は見沼の中学校の生徒たちにとって、「ふるさと見沼」のすばらしさを再認識するきっかけとなっています。



久保田ファームの久保田万太郎さん

見沼小学校と見沼中学校では、九年間の学びと育ちの連續性を意識した小中一貫教育の推進をしており、その一環として生徒会本部役員が見沼小学校を訪問し、あいさつ運動を実施しています。

見沼中学校は、あいさつができる生徒たちが多いとのことです。

見沼中学校区には見沼小学校があります。学校再編成により、荒木地区の旧荒木小学校と須加地区の旧須加小学校が統合され、令和四年四月に新たに開校した学校です。行田市では、児童生徒数の減少が今後も早い速度で進む見込みで、子供たちが切磋琢磨できる教育環境を早急に整備する必要があることから、これまでの計画を見直し、令和六年度に「行田市義務教育学校設置に向けた再編計画へ骨子編」を策定しております（行田市ホームページより一部抜粋）。

中学生のあいさつ運動



見沼小学校での挨拶運動（見沼中ホームページより）



頼りになる見沼中生徒のみなさん

「人が環境を作り、環境は人を作る」という信条を掲げている見沼中学校の生徒によつて、あいさつができる子供たちが育つています。

見沼中学校区では、九月に荒木地区、須加地区の体育祭がそれぞれ行われ、見沼中学校が会場の荒木地区体育祭では、生徒がボランティアで、競技役員として活躍してくれるそうです。大澤さんと森田さんは「中学生を重宝しています。納涼祭でも、中学生に司会をお願いしますが、喜んで引き受けくれます。本当に引き受けます。本当に頼もしい存在です。」と語っていました。

地域行事への参加

地域で子供を育てる

統廃合などによつて、学校数が減少していく中で、公民館等の社会教育施設は地域住民の重要な拠点となります。

須加地区の文化祭では、「親子で白玉だんごづくり」講座に参加した児童の皆さんによる白玉だんごが振る舞われました。

荒木地区、須加地区の文化祭では、それぞれの公民館で見沼小学校五年生児童による合奏の発表が披露されました。また、見沼小学校、見沼中学校の児童生徒による習字作品や、絵画作品も展示されていました。

「子供たちには身近な地域のお祭りを楽しんでもらいたい。家族だけではなく、地域のあたたかい方々にも育てられ、自分が生まれ育った地域、ふるさとを愛する人になつてほしいですね。」と森田さんは語っています。



荒木地区文化祭



須加地区文化祭



お寺の蔵で行われた芸能発表



みんなで協力して作った白玉だんご



2列目左から大沢さん、森田さん、荒木地区スポーツ協会の大木さん
1列目左は飯岡校長先生、右は岡島教頭先生



見沼中学校紹介

住所：行田市大字荒木4892
生徒数：71名
開校年月：1947年4月（開校78年目）
校訓：自分に問う＜知性 誠実 健康＞
キャッチフレーズ：居がい・行（生）きがい
行（活）かせがいのある学校
学校HP：<https://minu-jh.edumap.jp/>



子ども大学紹介

子ども大学すぎと



10月19日(日)14:00~16:00

【はてな学】

パンってどうしてふくらむの？やわらかいの？

～米粉をブレンドしたパンを作ります～

会場：埼玉県立杉戸農業高等学校 食品製造室

講師：奥田先生、君島先生、持田先生
食品流通科の1・2年生の皆さん

子ども大学すぎとは今年で九回目の開催、埼玉県立杉戸農業高等学校での講義は四回目となりました。受付が終わった参加者を杉戸農業高校食品流通科の生徒たちが案内していきます。日曜日の開催でしたが、多くの高校生がスタッフとして参加していました。

今回の講義では、パンを一から作ると講義時間が足りないため、予め用意された生地をまるめる工程以降を実践します。先生からの注意事項のあと、高校生がお手本をみせてくれました。

生地を休ませている間に、材料の配合、パン生地の作り方、ふくらむ仕組み、やらかさの秘密を学びます。「でんぶんの糊化」や「酵素」「焼成」など少し難しい表現も出てきましたが、「せっかくの子ども大学の講義なので、小学校での勉強より伸びした内容を」ということで、そのまま説明に使用しているとのことでした。

その後、ふくらんだ生地を成形し、天板に並べます。二次発酵し、パンがオーブンで焼けるまでの間は高校生の出番です。食料生産の持続可能性についての研究発表は、畜産によって温室効果ガスが発生することや、問題解決のために大豆ミートという選択肢があることを説明してくれました。また、杉戸町がおいしいお米の産地であることから、食品研究同好会が作成した。

十月十九日（日）子ども大学すぎとの第三回講義「パンってどうしてふくらむの？やわらかいの？」米粉をブレンドしたパンを作ります！」を取材させていただきました。

子ども大学すぎとは今年で九回目の開催、埼玉県立杉戸農業高等学校での講義は四回目となりました。受付が終わった参加者を杉戸農業高校食品流通科の生徒たちが案内していきます。日曜日の開催でしたが、多くの高校生がスタッフとして参加していました。

今回の講義では、パンを一から作ると講義時間が足りないため、予め用意された生地をまるめる工程以降を実践します。先生からの注意事項のあと、高校生がお手本をみせてくれました。

生地を休ませている間に、材料の配合、パン生地の作り方、ふくらむ仕組み、やらかさの秘密を学びます。「でんぶんの糊化」や「酵素」「焼成」など少し難しい表現も出てきましたが、「せっかくの子ども大学の講義なので、小学校での勉強より伸びした内容を」ということで、そのまま説明に使用しているとのことでした。

その後、ふくらんだ生地を成形し、天板に並べます。二次発酵し、パンがオーブンで焼けるまでの間は高校生の出番です。食料生産の持続可能性についての研究発表は、畜産によって温室効果ガスが発生することや、問題解決のために大豆ミートという選択肢があることを説明してくれました。また、杉戸町がおいしいお米の産地であることから、食品研究同好会が作成した。

第9回
子ども大学すぎと
学生大募集！

【子ども大学】とは？

町内在住の小学生～6年生の皆さんが「小さな大学」として大学のキャンパスなどで、大学の先生をおじいとした専門家による楽しくなる講義を体験できる事務です。

様々なジャンルの授業を全5回予定しております。

【開催概要について】

- 実施期間 9月7日(日)～11月30日(日)※全5回
- 対 象 町内在住の小学校4～6年生
※原則として毎日開催
- 定 員 50名
- 参 加 費 1,500円
- 申込期限 9月1日(金)～17時まで
- 注意事項 入場料は各自負担となります。結果につきましては、お申込みいただきました住所へ通知いたします。
②抽選を行っていただけます。6年生(卒業葉学年の応募者を優先させていただきます。
③会場までは、必ず保護者が送迎してください。
④主 催 子ども大学すぎと実行委員会
(日本工業大学・杉戸町教育委員会)
- お申込みについて

杉戸町電子申請・届出サービスからのお申込みとなります。
下記のURLまたは右のQRコードからお申込みください。
<https://apply.e-tumo.jp/town-sugito-saitama/u-offerListDetail?tempSeq=97083>

※利用者登録をせずに申し込む方はこちらからお進みください。

開合せ 子ども大学すぎと実行委員会事務局(杉戸町教育委員会社会教育課内)
0480-33-1111 (内線)484 地域日報を毎週8時30分～17時15分

「日光街道お米すごろく」で遊びました。東京日本橋をスタートし、ゴールの日光東照宮まで進みます。止まつたマスに応じてお米にまつわる食べ物札をゲットし、最後に一番札が多かつた人が優勝です。参加した小学生も高校生スタッフも一緒に盛り上がりました。

パンが焼きあがると、最後は再び先生の説明です。食品を販売する際に必ず添付することが必要な食品表示ラベルについて学びました。ラベルシールの製造者欄に自分の名前を記入します。焼きあがったパンを透明な袋に入れてシールを貼ると、店で販売しているようなパンが完成しました。

身近な食品であるパンですが、改めて考ええるとたくさんの「なぜ」がありました。講義資料にレシピも掲載されているため、ぜひ講義で学んだ「なぜ」を復習しながら家でも作ってみてほしいと思います。取材に応じていただきました子ども大学すぎと実行委員会及び杉戸農業高校の皆さん、ありがとうございました。



生地を休ませる間
パンがふくらむ理由をクイズで勉強



生地を丸めて



成形、発酵がすんだら
オーブンへ



焼き上がり！



パンが焼けるまで②
杉戸農業高校オリジナル
日光街道お米すごろくに挑戦

子ども大学情報

名称：子ども大学すぎと

学長：伊藤 美由紀（教育長）

副学長：条野 文洋（日本工業大学 教授）

実行委員長：瀧ヶ崎 隆司（日本工業大学 教授）

実行委員：杉戸町教育委員会 社会教育課

日本工業大学

対象学年：小学4～6年生

募集人数：50名



片付け中
高校生の皆さんも
お疲れさまでした

放課後コーディネーター研修会

令和7年9月5日（金）県民健康センター

地域学校協働活動News



講師
アクティブラーニング・シップ研究所代表
昭和女子大学特任教授
興梠 寛氏



より多彩に、より楽しく、
より深く、参加のチャンス
をひらくプログラム・メ
ニューづくり

● ● ● ● ● 6つの役割と方法
● ● 地域と学校を結ぶために
ボランティアアラーニング 等
ワークショップ

つながる、つなぐ、わかち
あううコーディネーターの
役割と必要な知識・技術

事例発表②

社会福祉法人

富士見市社会福祉事業団

鶴瀬放課後児童クラブ
南畠放課後児童クラブ

放課後児童クラブの活動と
地域子ども教室との連携につ
いて

● 鶴瀬わくわくクレインキッズ
と放課後児童クラブの連携
● 南畠あそび隊と放課後児童
クラブの連携

● 活動内容
放課後子ども教室の拡大
と活動開始時期
● スタッフの役割 等

入間市放課後子ども教室
事業について
青少年課

事例発表①

入間市こども支援部

青少年課



参加者の声

コーディネーターの重要な役割について、再認識することができました。ボランティアしてくれる人が減ったと嘆いていないで、ボランティアを増やすにはどうしたらよいか考え、コーディネーターとして積極的に関わっていきたいと思います。

携わっている方々が生き生きとしているからこそ、子どもたちも楽しく活動しているのではないかと感じました。

コーディネーターの皆さんとの協議を通じて、コーディネーターの皆さんの悩みなどを知ることができたと同時に、他グループの発表を通じて、皆さんの企画検討力に驚きました。

研修内容はもちろんですが、子どもたちの放課後の時間をよりよいものにしていくとする方々との出会いが嬉しく感じました。

放課後子ども教室活動見学会

令和7年10月23日（木）久喜市立久喜小学校

久喜市放課後子ども教室は、地域の人たちに見守られながら、自然や文化・芸術、スポーツ活動に親しみながら、「遊」、「友」達と一緒に「ゆうゆうプラザ」の開設を度々おこなっています。今年度の見学会は、昨度開設二十周年を迎えられました。会場として、県内各地から二十二名の参加者が集まりました。

見学会の内容

- ・久喜市放課後子ども教室の取組について
 - ・くきっ子ゆうゆうプラザの取組について
 - ・講座見学
- ①学習
②編み物
③ダンスを作ろう
④ドッジボール
⑤ボールと遊ぼう
⑥グラウンドゴルフ
⑦マイルーム・マイホーム
⑧子どもサポーター
- 



地域の方々がお互いに協力しながら、子供たちの放課後を支えているのは理想的であり、実践できているのはすごいと思いました。

子どもたちが生き生きと過ごす様子、関わる人みんなが安心して活動する様子が印象的でした。

久喜市の事業立ち上げの経緯について、当時のスタッフの方が丁寧に説明してくださいり、とても参考になりました。

地域の方が主体的に関わり、生涯学習の場所とされていることに感動しました。

スタッフの皆さんのお気持ちやまとまりが強い感じがしました。学校との連携も大切と感じました。

参加者の声

地域の高齢者、子どもの保護者、OG、OBが総出で地域全体で生き生きと活動されている姿に心を動かされました。

地域の方々の熱意などが子供たちの居場所づくりに生かされているととても感じました。とても多彩な取組などがあり、驚きました。地域性もあるとは思いますが、地域の方々が子供を支えることに対してとても熱心でいることが素晴らしいかったです。

20年という歳月をかけたからこそ、しっかりととした地盤と協力体制があるとは思いますが、自分の自治体でもどんどん取り入れてみたいアイディアがたくさん得られました。



令和7年度

地域学校協働活動 実践交流会

定員
60名

令和8年
1月20日(火)
13:30 - 16:30
埼玉県県民健康センター

こんな課題、ありませんか？

- 活動がマンネリ化してきた。
- 他の地域では、どんな取組をしているんだろう？
- 学校と地域、もっと上手に連携するには？



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっちゃん」

日頃の疑問・課題を共有し、活動の質を高める1日！

本セミナーで得られる3つのメリット

- ①活動の疑問を解消！
日頃抱える課題を共有し、理解を深めます。
- ②実践的な知見を獲得！
CSマイスターからの好事例紹介で、今後の活動に役立つヒントを得ます。
- ③持続的な展開へ！
参加者同士の交流を通じて、活動の質的向上と持続化を目指します。

講師

文部科学省総合教育政策局
CS推進名誉マイスター

竹原 和泉 氏
CSマイスター
朝倉美由紀 氏

お申し込みはこちら▶



二次元コードまたは、URLから
1月5日(月)までにお願いします。

<https://forms.office.com/r/ugiRicQnxJ?origin=lprLink>

地域学校協働活動情報通信**COLLABO**は

地域と学校が相互にパートナーとして、連携・協働していくことが求められている今、県内各地の学校と地域の協働(collaboration)の様子について紹介していきます。年間5回の発行を予定しております。

発行元：埼玉県教育局教育総務部生涯学習推進課 令和7年12月発行

電話：048-830-6979 メール：a6975-05@pref.saitama.lg.jp（ご意見、ご感想、取材依頼はこれらまで）